

岩手教区報

第386号
 立教188年2月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



「かりもの」への「恩」

主事・集会員 中田祥浩



昨年の11月、久しぶりに修養科の教養掛を勤めさせていたいただきました。修養科では毎日の朝礼にて、修養科主任から一言のお話があり、現在主任を務められる高井久太郎本部長も、実に心に響くお話を下さり、人気を博されています。私も先生のお話を楽しみに、毎朝、修養科生と共に朝礼へと向かいました。その中、特に忘れられないお話があります。

ある日、高井先生が天理市内を歩いていると、突然雨が降ってきました。傘を持っていない先生は、小走り目的の地へと急いでいると、偶然知人が通りかかり、傘を貸してくれました。まさに「渡りに船」と先生は有り難く借りられました。貸してくれた人が言うには、古くて壊れかけている傘なので、返さずにそのまま処分してくれとのことでした。とは言え、雨に濡れずに済んだ感謝の気持ちに居ても立ってもいられず、先生は恩を返すべく、元来モノの修理を得意とするところから、その傘の修理に取り掛かりました。壊れた箇所を手持ちの部品に交換し、錆びて自動で開かなかったシャフトも綺麗に磨き、ワンプッシュで開くようにしました。見違えるほどに生まれ変わった傘を貸主へお返しすると、大変喜ばれたそうであり、そして先生は次のお言葉をあげられました。

人のものかりたるならばりがいるではやくへんさいれゑをゆうなり（おふでさき三号28）人間同士のモノの貸し借りにおいて、返してお礼を言うのは当然のことであり、更にそこへ感謝の気持ちを含めた「印」を付けよとの言葉でありましょう。

私たちと神様との間での「かしまの・かりもの」の関係も同様と考えます。身の内はじめ、夫婦、親子、兄弟、身の周りに存在するものすべてが神様からの「かりもの」です。なぜ神様はこれらを私たち人間に貸して下さっているのか。それは人間に陽気ぐらしをさせたいという目的からであります。つまり、陽気ぐらしこそ神様への「かりもの」の恩を返す道であり、感謝の「印」ではないでしょうか。私たちは陽気ぐらしのキーワードとして掲げる、「感謝・慎み・たすけあい」の心で、どこまでも陽気ぐらしを目指さねばなりません。

本年は教祖年祭活動の仕上げの年です。直属や系統ごとの団参など、おちばがえりの機会が幾つもありましょうが、岩手教区でも5月に「岩手教区おちばがえり」を実施します。おちば滞在中には、奇しくも前出の高井久太郎本部長より講話を頂戴いたします。高井先生の心温まるお話に勇ませられ、年祭活動の仕上げに邁進いたしましょう。



「二つの約束」

私は修養科3か月生の時、詰所主任（後の大教会8代会長）の部屋に呼ばれ、修了後のことで面談を受けました。先生曰く「とりあえず大教会で青年づとめをして、頃合いを見て八戸市内に部屋を借りてやるから、布教生活に入ってみないか」と。私はお道の素晴らしさに感激していた日々だったので、「はい、そのつもりでおります。どうぞ宜しくお願い致します」と即答してしまいました。

その後1年間、本部と詰所のひのきしんを勤め、大教会に住み込ませていただきましたが、戻って3か月後に初代会長である父が、私が戻って安心したわけでもないでしようが、夏風邪をこじらせてあつという間に出直したのです。間もなく後継についての相談がなされ、

布教経験のない私にということになりました。そこで、その旨大教会長様をお願いにあがると、「お前は効能の理がないからまだ早い。どうしても言うなら、次の二つのことを約束してくれたら許さんでもない。一つは、生涯仕事を持たず道一条で通ること。もう一つは、教会に入るお供金のうち8割はおちばへお供し、残りの2割で教会運営をしていくこと」との親ゆえからの言葉でした。

一点目は何とか頑張れそうに思えましたが、二点目はとてもできそうになく、全く自信がありませんでしたが、「はい、その二点、約束させていただきます」と後先考えずにまた即答してしまいました。

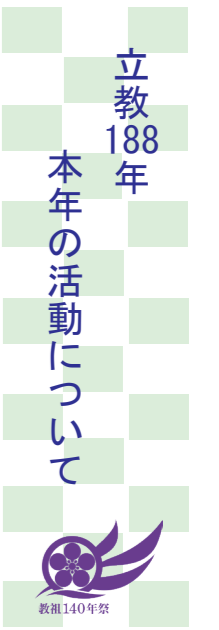
そういう経緯での教会長就任でしたし、時節は教祖百年祭三年千日の2年目の旬でしたから、単独布教師の気概で勇みに勇んで布教活動に邁進してまいりました。小南部大教会では、年4回の臨時列車団参を運行実施しており、1月の団参が終わるとすぐ4月の募集チラシが回るという具合で、まさに一年中帰参者募集に歩き回っていたように思います。直轄教会ごと目標設定もありましたから、大変ではありましたが、充実感や達成感の喜びもお与えいただいております。

そんな歩みの中、お道の信者が一人も居ない戸数80軒ほどの集落に集中的に出掛けました。其所に遠い親戚筋に当たる家があり、必ず立ち寄っていました。当家から「お前は親戚筋になるから来るな」とは言わないが、神様の話だけはするな」と言われていました。とは言われても、他に話もないのでちよいちよいお道の素晴らしさを話しておりましたら、ある時「実は娘が精神を病んでいて困っている。こんなこともお前の神様は救ってくれるのか」と告げられました。

ああ教祖が先回りして下さいました、と御礼申し上げ、どうすればご守護頂けるか真剣に話して、娘さんにおさづけを取り次がせていただきました。後とも知れず先とも知れず、天より神がしっかりと踏ん張りておられました。

行事予定 【2月分】

- 1日 役員会議（10時）
- 8日 学生担当委員会例会（19時30分）
- 15日 青年会例会（19時）



婦人会

主任 鈴木真喜



婦人会成人目標

ひながたをたどり

陽気ぐらしの台となりましょう

婦人会活動方針

教祖140年祭に向かって

育つ努力、育てる丹精に徹しよう

・元なる思召を伝え広めよう

・老いも若きもおたすけの喜びを味わおう

本年も昨年同様に成人目標と、活動方針を示していただきました。

岩手教区婦人会では、自らが育つ努力をし、教祖のひながたを歩む仲間を増やして、ご存命の教祖にご安心していただけるような年祭活動の最後の年にしたいと思えます。

本年もよろしくお願いいたします。

青年会

委員長 村松義朗



青年会基本方針

心を澄ます毎日。

—ほこりを減らし、誠を増やす—

岩手教区青年会では、基本方針を念頭に置き、多様化が進む現代において、青年会員も多種多様な状況に置かれている中でも、各行事やひのきしんなどの青年会活動を通して、お互いに心を澄ます毎日を通るきっかけになるよう取り組んでいく所存です。

教祖140年祭活動仕上げの年。一人ひとりが教祖のひながたをたどり、親神様の思いに近づく旬。心を澄ます毎日。

少年会

団長 高橋邦和



少年会活動方針

教祖のひながたを目標に教えを実践し、子供に信仰のありがたさを伝えよう

重点項目

- ・子供に教祖のお話をしよう
- ・教会おとまり会、教会こども会を実施しよう
- ・地域で少年会ひのきしんを実施しよう

—こどもおぢばがえり—

年祭活動最後の年

- ・一人でも多くの子供とおぢばがえりの喜びを味わおう
- ・全教会からの帰参を目指そう

岩手教区団では、少年ひのきしん隊に参加するわかぎの増員と、第52回総会の充実を目指します。特に総会では、少年会員がいない教会も参加していただけるよう働きかけ、おつとめ総会を通して少年会活動のご守護をいただけるよう、取り組んでいきたいと思えます。

学生担当委員会

委員長 鈴木真浩



学生担当委員会基本方針

教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう

実践項目

- ・教祖のひながたを学び深め、年祭活動を学生と共に歩もう
- ・おぢばが心の拠り所となるよう学生に働きかける
- 道の学生成人目標
- ・生かされていることに感謝しよう
- ・お道の素晴らしさを伝えよう
- ・進んで教会につながるよう

教区学生担当委員会では、基本方針、実践項目をもとに、教祖140年祭に向けて、教区につながる学生の育成に邁進させていただきたく存じますので、お力添えの程よろしくお願いいたします。

立教187年度

「教務支庁ひのきしん」報告

昨年5月から9月にかけて、左記の支部有志(総数28人)が教務支庁の除草、剪定などの外回りひのきしんに勤しんだ。なお、来年度も実施予定。

5月19日(日)	三陸支部	10人
6月11日(火)	花巻支部	7人
7月4日(木)	九戸支部	5人
9月18日(水)	二戸支部	6人



祭事部

「雅楽初心者講習会」報告



教区祭事部では、12月14日(土)、教務支庁に於いて、雅楽に興味を持つ初心者を対象に、「雅楽初心者講習会」を開催し、講師3人、担当者3人、受講者5人、計11人が参加した。

午前10時に開会し、管別に部屋を分けて、講師(笙・権谷正一氏、龍笛・権谷一平氏、箏・田中範道氏)による管の説明をはじめ、唱歌や奏法、心構えなどの講義が行われた。昼食をはさんで午後からは、「越殿楽」の合奏練習となり、午後3時に解散した。

受講者は雅楽の基礎を学び、演奏技術の向上につとめ、さらに教区管内における雅楽演奏者の増加にも繋がる、有意義な講習会となった。



献血推進委員会

「献血推進研修会」【3月1日】

教区献血推進委員会は、献血ひのきしんのより一層の充実と発展を期するうえから、左記の要項で献血推進研修会を開催します。今回も県赤十字血液センターから講師を招き、血液事業についてわかりやすくお話しします。一人でも多くのご参加をお願いします。

記

日時	3月1日(土) 10時~11時
場所	教務支庁
講師	西海枝武志氏(岩手県赤十字血液センター事業副部長)
主旨	血液事業の現状と課題を把握し、献血ひのきしんの推進に役立てる。

※参加を希望される方は、2月27日迄に小笠原敦子委員長へご連絡下さい。

